

事業コード	R元-建-継-06		区 分	● 国庫補助 ○ 県単独
事業名	地方道路交付金事業(改築)		部局課室名	建設部 道路課
事業種別	一次改築(バイパス)		班 名	道路建設班 (tel) 018-860-2492
路線名等	(一) 河辺阿仁線		担当課長名	道路課長 佐藤 秀治
箇所名	秋田市河辺曾場		担当者名	副主幹(兼) 班長 渡部 寿
総合計画との関連	政策コード	03	政策名	未来の交流を創り、支える観光・交通戦略
	施策コード	05	施策名	県土の骨格を形成する道路ネットワークの整備促進
	指標コード	04	施策目標(指標)名	生活道路の機能強化

1. 事業の概要

事業期間	H27~R4(8年)	総事業費	5.5億円	国庫補助率	59.50	
事業規模	○延長L=1,000m、幅員W=5.50(10.5)m(2.5+1.25+2.75+2.75+1.25)m					
事業の立案に至る背景	○一般県道河辺阿仁線は、秋田市河辺和田と北秋田市阿仁打当を結ぶ県道である。主に河辺地区、岩見三内地区の地域住民の生活道路として利用されている。 当区間の車道幅員は狭く、集落付近では急カーブが連続しており、車両のすれ違いが困難である。見通しが悪く歩道も設置されていないため、歩行者等の通行の安全が確保できていない状況となっている。 地元および秋田市から要望を受けていることから早期に整備を実施する必要がある。					
事業目的	○バイパス整備による安全で円滑な交通の確保 ・線形改良および幅員の確保による車両等通行の安全性向上 ・通過交通の排除による沿線住民である歩行者等の安全性向上 ○現道拡幅整備による安全で円滑な交通の確保 ・幅員の確保による車両等通行の安全性向上					
事業費内訳 (単位:千円)			計 画 時	評 価 時	増 減	理 由 等
	事 業 費		450,000	549,000	99,000	
	経 費	工 事 費	295,000	297,000	2,000	労務単価の増
		用 補 費	117,000	185,000	68,000	建物補償の精査による増
		そ の 他	38,000	67,000	29,000	函渠基礎工検討業務が必要となったことによる増
	財 源	国庫補助	315,000	326,655	11,655	
		県 債	121,500	200,100	78,600	
そ の 他						
	一般財源	13,500	22,245	8,745		
事 業 内 容		調査・設計 改良工 舗装工	調査・設計 改良工 舗装工 橋梁工		国庫補助率の変更による	
事業の進捗状況	○平成30年度末で事業進捗率24%(用地進捗率は15%)					
事業推進上の課題	○特になし					
関連する計画等	○第13次秋田市総合計画					
情勢の変化及び長期継続の理由	○特になし					
事業効果把握の手法及び効果	指 標 名	県管理道路改良率				
	指 標 式	整備率(整備済み延長/路線実延長)				
	指標の種類	○ 成果指標	● 業績指標	低減指標の有無	○ 有 ● 無	
	目標値 a	78.9%		データ等の出典	道路課調べ	
	実績値 b	79.0%		把握の時期	平成31年 4月	
達成率 b/a	100.1%					

前回評価結果等	<input checked="" type="radio"/> 選定または継続 <input type="radio"/> 改善 <input type="radio"/> 見直し <input type="radio"/> 保留または中止
	①指摘事項
	特になし
	②指摘事項への対応
	特になし

2. 所管課の自己評価

観 点	評価の内容 (特記事項)	評 価 点
必 要 性	○当該区間は曲線半径が100m未満の箇所が8カ所存在し (最小20m)、冬期堆雪幅が確保されていない 交通の安全確保が望まれる。 ○通学路指定区間にも関わらず歩道が設置されていない。	10点
緊 急 性	○当該区間の交差点は、小学校通学路における緊急合同点検 (平成24年度実施) の危険箇所である。	15点
有 効 性	○緊急医療施設と河辺岩見三内地区のアクセス性が改善され、救急救命体制の強化が期待される。 ○通過交通がバイパス部に流れることで、集落付近の現道の交通量が減少し、歩行者等の安全確保に有効である。	28点
効 率 性	○事業の費用便益比は1.12であり、効率性は高い。 ・総便益の現在価値 6.7億円 ・総費用の現在価値 6.0億円 ○迂回路計画において使用期間に応じた簡易な舗装構成に見直しコスト縮減を図っている。	17点
熟 度	○平成30年度末の事業進捗率は24%である。	10点
判 定	ランク (●Ⅰ ○Ⅱ ○Ⅲ)	80点
	緊急性、有効性が高く、事業は引き続き実施すべきである。	
総合評価	<input checked="" type="radio"/> 継続 <input type="radio"/> 改善して継続 <input type="radio"/> 見直し <input type="radio"/> 中止	
	事業継続は妥当である。	

3. 評価結果の当該事業への反映状況等 (対応方針)

コスト縮減に努めながら、事業を継続する。

4. 公共事業評価専門委員会意見

県の対応方針を可とする。

公共事業箇所評価基準

評価種別 継続箇所評価
適用基準名 道路改築事業 (地域内・生活圏交通促進)

事業コード (R1-建-継-06)
箇所名 (秋田市河辺曾場)

1. 評価内訳

観点	評価項目	細別	評価基準	配点	評価点	摘要	
必要性	道路の現状の問題						
	道路構造上の欠陥箇所数 ・車道幅員<5.5m ・最小半径<100m ・最急勾配>4% ・冬期堆雪中なし		3箇所以上	8	5	・最小半径20m ・冬期堆雪中なし 2箇所	
			2箇所	5			
			1箇所	3			
			該当箇所なし	0			
	道路環境上の欠陥該当項目 ・現道の混雑度 ≥ 1.0 又は走行速度 ≤ 30 km/h ・現道の事故率 ≥ 50 件又は重大交通事故が発生 ・通学路指定で歩道なし又はバス路線で歩道なし		3項目該当	7	5	・通学路指定で歩道なし ・重大交通事故(H21重傷) 2項目	
			2項目該当	5			
			1項目該当	3			
			該当項目なし	0			
		計			15	10	
緊急性	道路をとりまく環境等						
	関連事業の有無 ・県の主要プロジェクト ・地域振興プロジェクト ・ほ場整備等の他事業		あり	5	5	第13次秋田市総合計画	
			なし	0			
	緊急度の高い課題の有無 老朽橋、災害危険箇所、迂回路の確保 冬期通行不能区間等		あり	5	5	通学路緊急合同点検危険箇所	
			なし	0			
	同一路線の整備状況		整備済み	5	5		
			未整備	0			
		計			15	15	
	有効性	道路の位置づけ					
地域コミュニティの確保 (公共交通、公共施設・交流施設など) 救急医療施設へのアクセス			該当する	7	7	秋田市マイタウンバス南部路線	
			該当しない	0			
地域防災計画に重要な道路			アクセス性向上に大きく貢献	8	8	秋田赤十字病院	
			アクセス性向上に貢献	6			
			アクセス性向上への貢献が小さい	4			
社会変化による事業の必要性			該当する	7	7	秋田市防災計画に沿線避難所位置づけ	
			該当しない	0			
必要性が高い 必要性に変化はない 必要性が低い 必要性が著しく低下		必要性が高い	8	6			
		必要性に変化はない	6				
		必要性が低い	4				
		必要性が著しく低下	0				
	計			30	28		
効率性	事業の投資効果等						
	費用便益比 (B/C)		1.0以上	5	5	1.12	
			1.0未満	0			
	計画交通量		5,000台/日以上	5	3	2,100台/日	
			1,000台/日以上~5,000台/日未満	3			
	コスト縮減		1,000台/日未満	0	5	迂回路計画の見直し	
			あり	5			
事業中止による影響		なし	0	4	部分的ミニバイパス		
		既投資額の損失大	5				
		既投資額の部分的損失	4				
	既投資額の損失が少ない	3		20	17		
熟度	事業の進捗状況						
	事業の進捗 (事業費)		8割以上完了	10	5	24%	
			5割以上完了	8			
			1割以上完了	5			
			1割未満	2			
	用地買収の進捗 (面積)		8割以上完了	10	5	15%	
			5割以上完了	8			
			1割以上完了	5			
			1割未満	2			
		計			20	10	
合計				100	80		

2. 判定

ランク	判定内容	配点	判定	摘要
I	優先度がかなり高い	80点以上	I	
II	優先度が高い	60点以上~80点未満		
III	優先度が低い	60点未満		